

先輩方から生徒会の運営を任せられ、早半年ほどが過ぎました。2学期には、体育祭、文化祭といった私たちにとって最大の活躍の場が控えています。リーダー研修会で話し合ったこと、他の学校の活動に学んだことをこれからの活動に組み込み、いじめをなくし、みんなにとって幸せな学校生活に近づきよう取り組みを進めたいと思います。これからの学校がどのように変わっていくかは、私たちリーダーにかかっています。そして、それを実現していく責任は全校生徒一人一人がもっています。私たちは、力を合わせ支えあって「一人一人が幸せにすごせる」学校を作り上げていきたいと思っておりますので、どうか皆さん、見守ってください。

平成21年9月5日 出雲市立中学校 生徒代表

友達の長所を認め合おう

私たちの課題は、お互いの長所を見つけ、認め合うためには何をすればよいのかということです。学校の中では、お互いに知り合い、長所を認め合う機会が少ないこと、具体的に何をすればよいかわからない、逆に短所を見つけてしまっていることなどが課題としてあがりました。学校では、様々な大会の壮行式・大会報告や文化祭の発表・展示などから友だちの個性を見つけています。また、生徒会行事を通し、友達の知らなかった面を知ることができるような企画を工夫しています。私たちは、まず、相手の長所を見つけ、信頼関係を作った上で直してほしいことはお互いに言い合える人間関係づくりができればいいと思います。

未来に輝く子どもたちへ



天野会長と中学生の代表がメッセージを交換しました

1. かけがえのない命の尊さを知ってください。
1. 人と人が支えあいながら生きていく大切さを知ってください。
1. 全ての人に思いやりを持って接してください。
1. 自分を大切に、自覚を持って行動してください。
1. 相手の長所を見つけて、あたたかい心と信頼関係を育ててください。

平成21年9月5日
大人代表 出雲市青少年育成市民会議 会長 天野 勲

今、苦しみや悲しみ、不安、また将来を見出せないなど、多くの悩みを抱え、それが心の奥底に重い負担となり、明るい未来を自分から消し去り、寂しく過ごしている子どもたちが増えているように感じます。どんな小さなことでも、一人で悩まないで勇気を持って話しかけてください。必ずあなたの思いや、悩みをしっかりと受け止めてくれる人がいます。それは家族であったり、先生であったり、友達であったり、また地域の大人かもしれません。話しかけることで、今まで自分が活かされた悩みも楽になり、そして自分が活かされ

ていると気づき、新たな道も開けてくるはず。未来を担う子どもたちは、出雲市にとって、いや日本、世界にとって、かけがえのない宝物であり、私たちの誇りです。その宝を磨き上げていくのはわれわれ大人一人ひとりの責任でもあります。忘れないでください。私たち大人はいつでも子どもたちを見守っています。本日の総決起集会を契機として、すべての子どもたちが幸せで感動あふれる人生が送れることを祈って、次のメッセージを送ります。

出雲市では、7月1日に国において成立した『子ども・若者育成支援推進法』の趣旨に沿った形で、「出雲市子ども・若者計画の策定」、「協議会の設置・運営」、「推進本部の設置」、「相談センターの開設」などを検討していきます。この青少年育成市民総決起集会の開催を契機として、市民の皆さんにはそれぞれの立場での取り組みをさらに発展させていただき、相互に協力し、出雲の子どもたちをみんなで見守り、みんなで育てていきましょう。



集会では、中学生の代表の皆さんから「子どもたちからのメッセージ」が伝えられました。それに答えて、大人を代表し出雲市青少年育成市民会議の会長 天野勲さんが、「大人から子どもたちへのメッセージ」を送り、お互いがメッセージ交換をしました。

子どもたちからのメッセージ

私たちは生徒会の役員として、日々自分たちの学校をより良くするために活動しています。8月25日に科学館で行われたフレンドシップ事業リーダー研修会には、市内中学校から生徒会役員39人が集まりました。フレンドシップ事業は、「いじめを未然防止し、よりよい人間関係を築くことができる集団づくり」をめざしています。出雲市の取り組みは今年で3年目になります。昨年の夏には、先輩たちが School life makes us happy という統一スローガンを作りました。そして、今年はそのスローガンに基づいて「一人一人が幸せに過ごせる」学校をめざして、具体的な取り組みを考えました。私たちはこの研修会で他の学校の良いところを見習うことはもちろん、自分たちの学校の良いところや改善しなくてはならないところを知る事ができました。今日は、その時話し合った5つの課題について、具体的な取り組みをお知らせします。

交流を深める場を設けよう

それぞれの学校での課題を出し合ってみると、校内では他学年との交流が少ないこと、校外では地域のみなさんと交流する機会が少ないことに気づきました。そこで、学年間の隔たりをなくし、地域の幅広い年齢層の人とのようにすれば交流を深めることができるか考えました。

全校レクリエーション、体育祭での保育園・幼稚園児との交流種目、小学校6年生との交流会などがいいという話し合いになりました。2学期に取り組む体育祭は、全校生徒同士、また学校と地域のみなさんとつながる絶好のチャンスだと思います。このチャンスをうまく生かすことができれば、色々な人との絆が深まり、相手の気持ちを考えることにつながると思います。全校生徒、地域のみなさんが一つになっているような地域社会にしたいと思います。

自分の言動に責任をもとう

学校では、言葉の重さなどについてみんなで話し合ったりする機会はありますが、理解しきれていない人が多いと感じています。自分が普段言っている言葉に対する意識や理解を深め、全校生徒が責任のない安易な発言をしないようにするための取り組みが大切だと考えました。

多くの学校で、人権集会などの機会に「言葉の重さ」について話し合っています。また、意見箱を記名制にし、責任の所在を明らかにすることも工夫の一つです。私たちは、日常的で小さな問題から取り組んでいくことが大切だと考えています。また、3年生が、自分の立場の重要性を理解し、下級生の手本となれるよう努力すれば、その思いが下級生に伝わり、私たちの目指す「全員が責任感をもった学校」の実現が可能になってくると思います。一人一人が自分の言動の重みを知って行動できるようになり、集会を開かなくても「言動に責任を持つ」ということが当たり前になってほしい、お互いの言動に関心をもってほしいと思います。

相手の気持ちを考えよう

学校生活における友だち関係の問題点として、「相手を傷つける」「人の意見を聞くことができない」「相手のことを考えない」ということがあります。

この問題に関して、いじめに関するアンケートをとったり人権集会を開いたりすることで「全員が友だちとなり、楽しく過ごせる学校にしていこう」とことをめざすことになりました。

相手の気持ちを考えるとき、言葉は大きな問題です。日常の会話で軽い気持ちで相手の命まで否定するような言葉が出る場合があります。自分は冗談半分のつもりでも、相手は深刻に受けとめることを理解しない人が多い、また、そういう言動に対し、まわりの人が無関心であることも大きな問題だと思います。どんな人も色々な思いや気持ちをいだいて生活しています。相手の立場に立って接することを忘れず、一人一人の気持ちが尊重される社会を作っていきたいと思ひます。

一人一人を大切にしよう

私たちの話し合いでは、「みんなの立場が平等だろうか」「一人一人の意見が大切にされているだろうか」また、「役割が平等に分担されているだろうか」ということが課題でした。

市内の学校の中には、学校独自の人権宣言を作ったり、ハートフルウィークなど一人一人を大切にしている取り組みを行ったりしている学校もあります。みんなが平等に意見を言えるような雰囲気を作りたいです。また、さまざまな行事のときにみんなで役割を分担しあい、一人一役で活動に取り組めるように企画運営をしていきたいです。

それぞれの学校では、「一人一人を大切にするため」に工夫した活動が行われていますが、今自分たちがやっている活動を見直して、もっと一人一人を大切にすることで、学校全体が一つになれば素晴らしいと思います。